

卒業研究 (会計アドバンス)		演習	教授 安藤 鋭也	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300401	

### 1. テーマ

会計に関する諸問題を研究します。

### 2. ゼミのねらい・概要

3年次の会計専門ゼミで習得した知識を活かして、それぞれの問題意識に基づく研究テーマに、主体的かつ積極的に取り組むことを期待します。

卒業論文の作成において、ある論点に関して複数の立場を採り得る場合、どの立場をとっても構いません。ただご自身の立場（見解）を論理的に説明できることが望まれます。

卒業論文の作成を通して、社会に出た後も役立つ実践的な能力（会計リテラシー）を身につけてもらえるよう指導します。

### 3. ゼミ計画

概ね以下の通りです。皆さんの希望を出来るだけ取り入れます(ゼミの主役は皆さんです)。相談しながら進めましょう。

<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(履修指導)</li> <li>2. 卒業論文指導①(実際の卒業論文の紹介や解説)</li> <li>3. 卒業論文指導②(テーマの選び方)</li> <li>4. 卒業論文指導③(構成の組み方)</li> <li>5. 卒業論文指導④(参考文献の選び方)</li> <li>6. 卒業論文指導⑤(図表などの表記の仕方)</li> <li>7. 卒業論文指導⑥(結論の導き方)</li> <li>8. 卒論テーマの口頭発表①(学生3~4名)</li> <li>9. 卒論テーマの口頭発表②(学生3~4名)</li> <li>10. 卒論テーマの口頭発表③(学生3~4名)</li> <li>11. 卒論テーマの口頭発表④(学生3~4名)</li> <li>12. 卒論テーマの口頭発表⑤(学生3~4名)</li> <li>13. 卒論テーマの口頭発表⑥(学生3~4名)</li> <li>14. 卒論テーマの口頭発表⑦(学生3~4名)</li> <li>15. まとめ(後期に向けた学修計画作成)</li> </ol>	<p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(卒論完成に向けた学修計画作成)</li> <li>2. 卒業論文の中間発表①(学生3~4名)</li> <li>3. 卒業論文の中間発表②(学生3~4名)</li> <li>4. 卒業論文の中間発表③(学生3~4名)</li> <li>5. 卒業論文の中間発表④(学生3~4名)</li> <li>6. 卒業論文の中間発表⑤(学生3~4名)</li> <li>7. 卒業論文の中間発表⑥(学生3~4名)</li> <li>8. プレゼンテーションの指導</li> <li>9. 卒業論文の最終発表①(学生3~4名)</li> <li>10. 卒業論文の最終発表②(学生3~4名)</li> <li>11. 卒業論文の最終発表③(学生3~4名)</li> <li>12. 卒業論文の最終発表④(学生3~4名)</li> <li>13. 卒業論文の最終発表⑤(学生3~4名)</li> <li>14. 卒業論文の最終発表⑥(学生3~4名)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--	---

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

皆さんの研究テーマに関する知識習得と分析・考察を計画的に行うことが求められます(最低限、週に2時間程度)。ゼミにおける口頭発表・中間発表・最終発表に向けた準備も欠かせません(リハーサルを含めて、週に3時間程度)。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

研究の進捗に従って指導します。卒業論文提出後も、残された課題を中心に求めに応じて助言します。

### 6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文をまとめることが目標です。その過程を通じて、様々な気づきを得ることも狙いです。

### 7. 成績評価の方法・基準

卒業論文の内容(60%)・ゼミへの取り組み姿勢(40%)で成績評価を行います。

## 8. テキスト・参考文献

各自の研究テーマに沿うと思われる文献などを個別にご紹介します。

テキスト・参考文献には指定しませんが、黒木登志夫（2011）『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合，英語の場合ー』中央公論新社の一読をお勧めします。

## 9. 受講上の留意事項

卒業論文のテーマは，どこか（または何らかの形）で会計と接点があれば結構です。皆さんが最も関心をお持ちのテーマを選んで下さい。主体的・積極的な参加を心から歓迎します。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，総合商社における経理パーソンとしての実務経験および屋外作業機器メーカーにおける社外監査役としての実務経験も活かして指導します。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。